

## 提案に係る参考情報

No.	事項	参考情報
1	各高専の収入予算の規模について	ホームページに掲載している年度計画の収入予算を、51高専55キャンパスで除することにより、1キャンパスあたりの大まかな予算規模が確認できます。 なお、仙台、富山、香川、熊本の4高専はそれぞれ2キャンパスとなっているため、予算規模も約2倍となります。 また、経常収益については、あくまでも参考ですが、ホームページに掲載している事業報告書の資料編で公開しております。
2	本部事務局及び高専それぞれで行っている業務の概要や区分等について	概ね以下のとおりです。 <b>本部事務局</b> ①予算配分、財務諸表作成 ②給与業務、共済業務、支払業務、収納業務、旅費業務の一元処理 ③本部内の物品・資産管理 ④本部及び全高専に係る契約  <b>各高専(契約担当役、出納命令役等の会計機関は各高専に設置)</b> ①予算管理、決算業務 ②支払・収納データの作成 ③各高専の物品・資産管理 ④各高専の契約
3	本機構における主な業務システムについて	本機構の財務会計に関する重要な業務システムは以下のとおりです。 ①財務会計システム ②人事給与統合システム ③旅費システム ④学納金管理システム
4	「中間決算」について	中間決算は、例年10月～12月に、本決算を作成するためのプレ的な位置付けとして、本決算と同程度の精度により実施しています。なお、取引の齟齬及び誤認等を洗い出し、期中段階で修正することを目的としており、内部資料としての位置付けであるため、外部への公表等はしていません。 また、中間決算に対しても監査人監査が実施されています。
5	「51高専55キャンパスに対する会計職員研修」について	テーマ、回数、開催方法に指定はございません。 <参考> これまでは、年4～8回程度、往査校においてテレビ会議等を利用して、1回当たり1～3時間程度の研修が行われています。 テーマは、独立行政法人会計基準に関する基礎知識、高専往査で洗い出された問題点、公的研究費に関するコンプライアンスなど様々です。
6	直近(平成30)年度における年間の往査日数およびその内訳について	平成30年度の実績は以下のとおりです。(実施時期:平成30年11月～令和元年5月) <本部> 期中:5日、機構役員とのディスカッション:1日 期末:15日 <各高専> 2日×1校(1キャンパス)、3日×9校(10キャンパス)
7	往査の日数等について	各高専の往査に3日間以上かつ1日あたり3人以上を充てることとしておりますので、51高専で合計459人日以上となります。
8	監査に係る旅費について	旅費は、往査後の請求に対して、本機構の旅費規程に基づきお支払いいたします。
9	プレゼンテーションについて	当日、選定委員は事前に提出のあった資料一式を持参しますが、当日用の資料を別途配付することも可能です。 また、プロジェクターを用意しておりますので、使用される場合はノートPC等をご持参ください。 なお、所要時間は、説明10分・質疑応答20分を予定しております。 10分の説明については、新しいご提案やアピールポイントを中心にお願いします。